

平成30年度 京都市域地域医療構想調整会議（第1回Dブロック会議）

日 時：平成30年11月20日（火）14:00～16:00

場 所：京都府医師会館 212・213 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 地域医療構想調整会議（ブロック会議）の趣旨について
- (2) 各病院から「病院の役割と今後について」発表
- (3) 地域における各病院の役割について意見交換
- (4) 地域医療データ等の勉強会

4 閉会



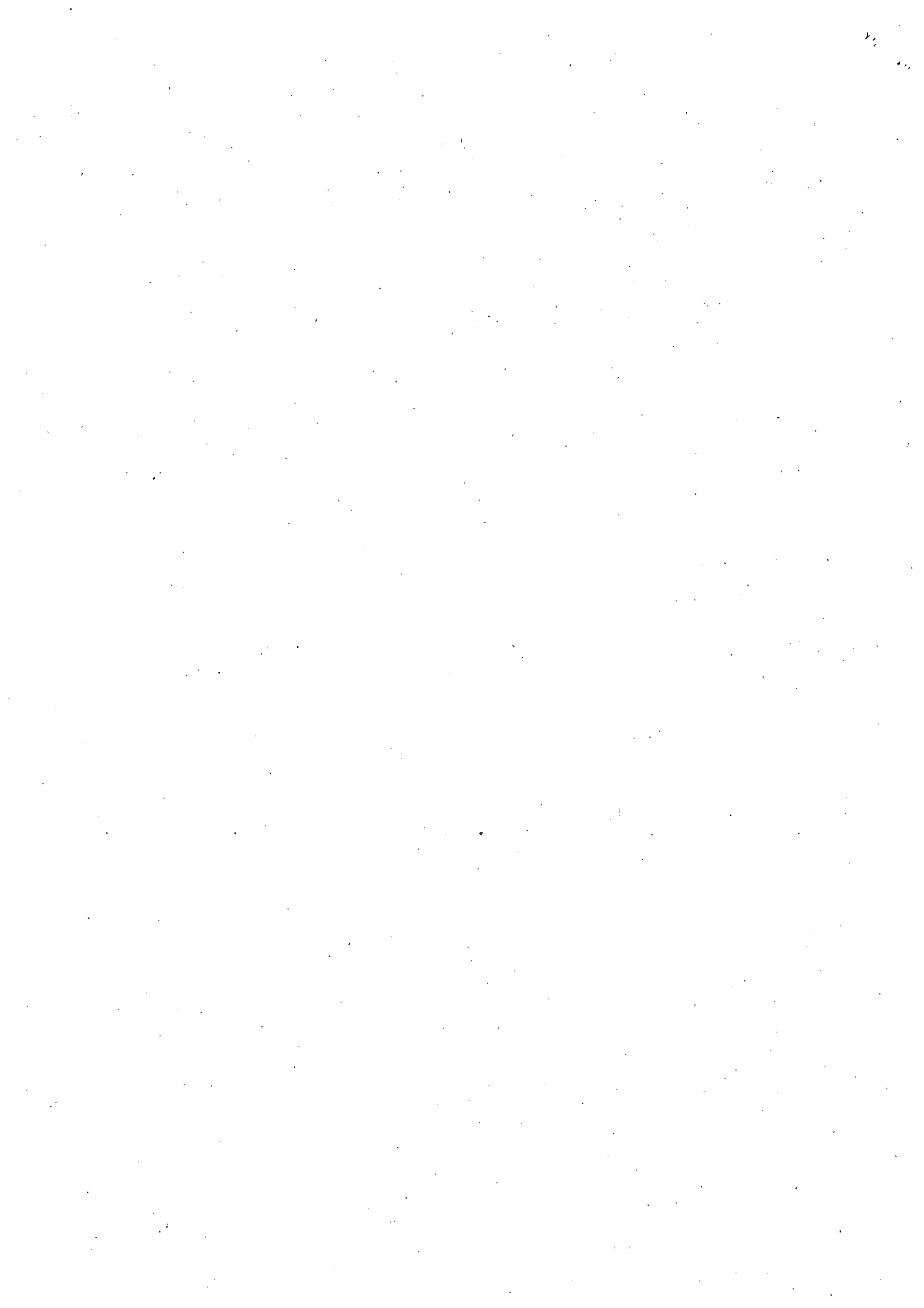
【第1回】京都市ブロック部会出席者一覧(団体)

	団体名	役職名	就任者名
D ブ ロ ッ ク	京都府医師会	理 事	谷 口 洋 子 (座 長)
	山科医師会	理 事	松 田 義 和
	伏見医師会	会 長	辻 光
	山科歯科医師会	会 長	杉 江 良 啓
	伏見歯科医師会	会 長	織 田 和 博
	京都府薬剤師会	理 事	中 林 保
	山科薬剤師会	会 長	河 崎 純 子
	伏見薬剤師会	会 長	藤 枝 英 美
	京都府訪問看護ステーション協議会	—	松 木 香 織
	地域包括支援センター	京 都 市 健 康 長 寿 企 画 課 課 長 補 佐	西 尾 知
		京 都 市 介 護 ケ ア 推 進 課 課 長	田 中 超
	京都府介護支援専門委員会	副 会 長	小 林 啓 治
	京都市	医 務 衛 生 課 医 務 係 長	杉 山 利 香
京都府	医 療 課 担 当 課 長	真 下 信 男	

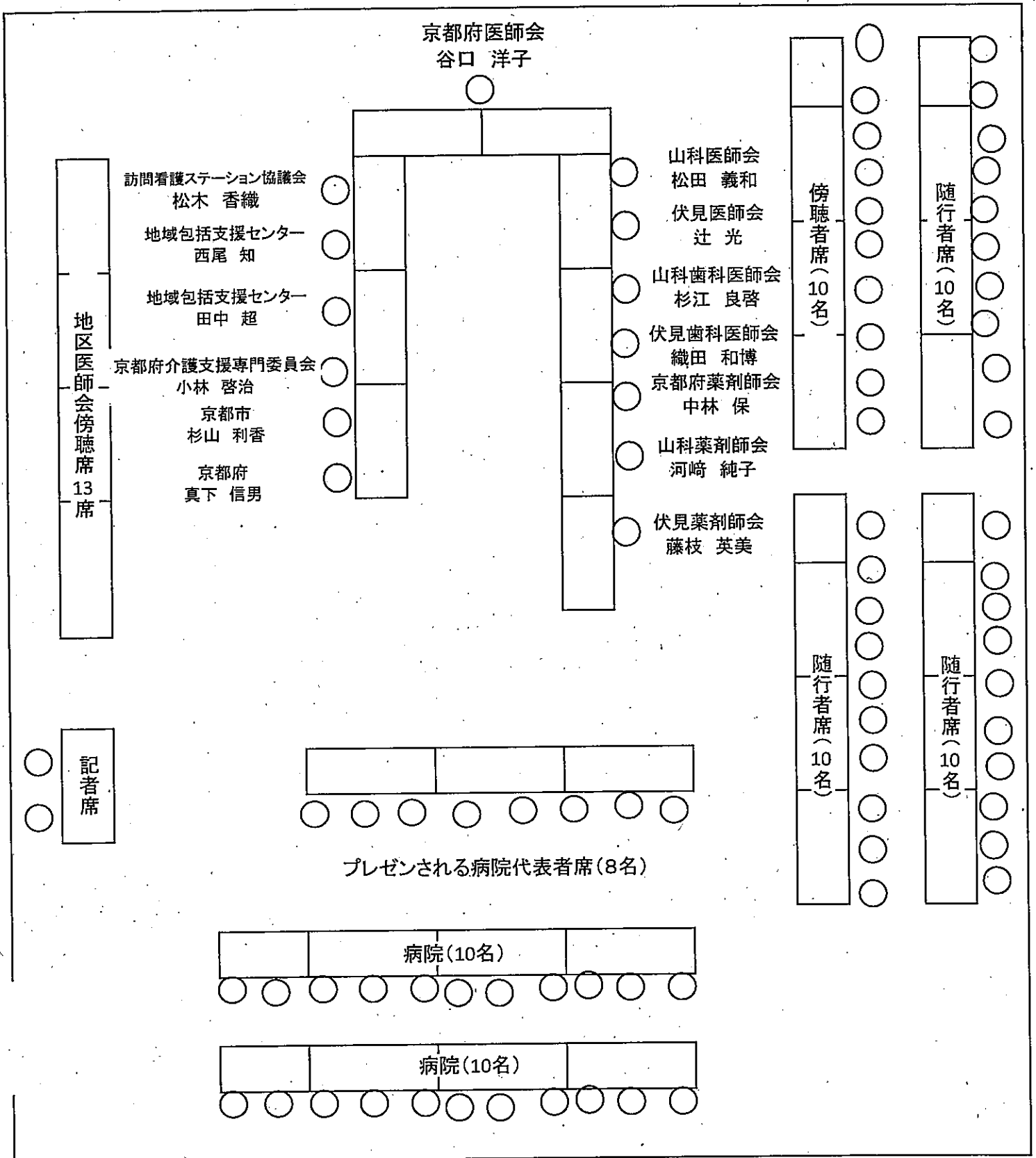


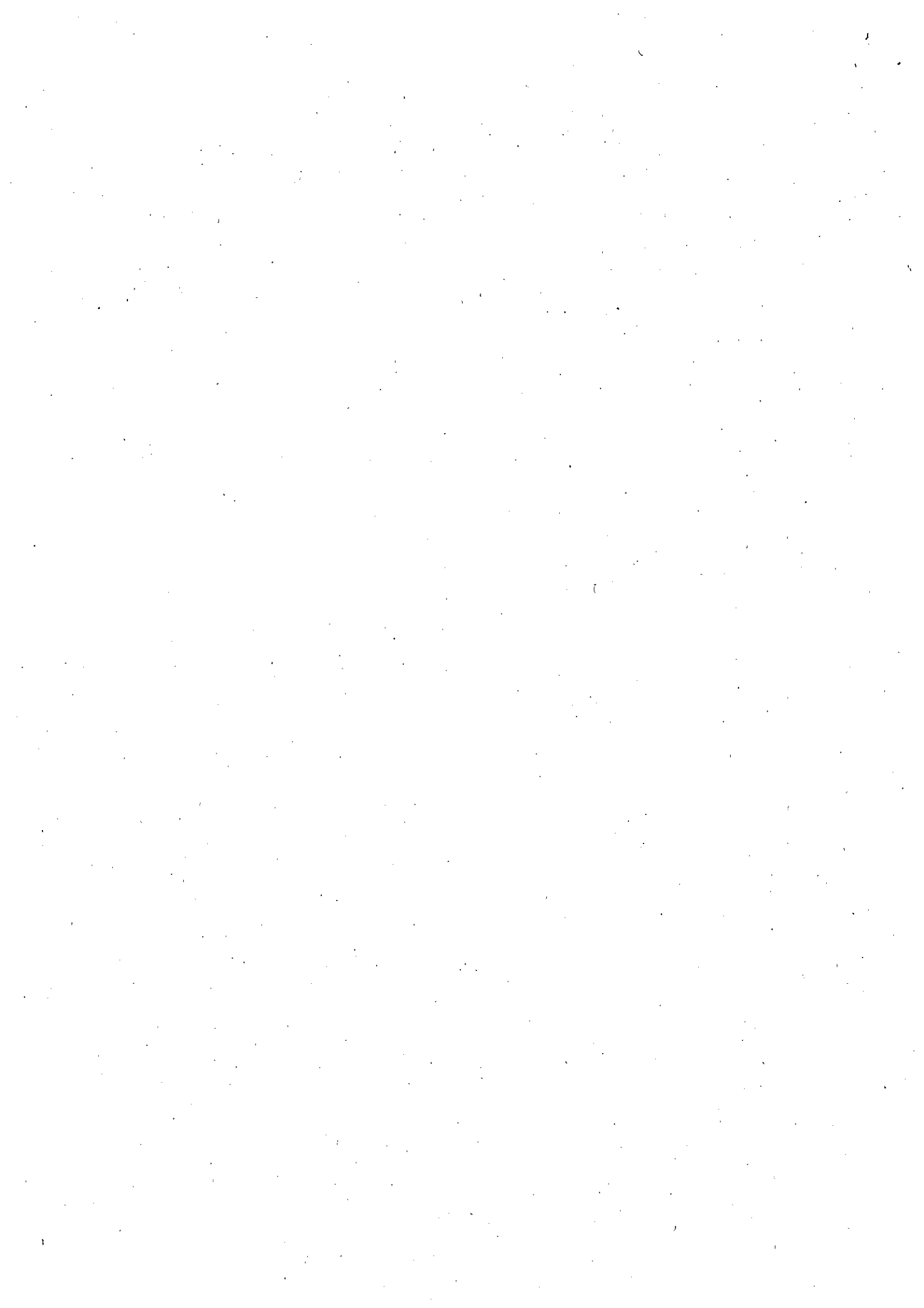
京都市ブロック部会出席者一覧

No.	施設名	役職名	出席者名	
山科	73 医療法人十全会 京都東山老年サナトリウム	院 長	赤 木 厚	
	74 医療法人社団洛和会洛和会音羽病院	管 理 部 長	八 木 利 之	
	75 一般社団法人 愛生会山科病院	欠 席		
	76 医療法人社団洛和会洛和会音羽リハビリテーション病院	経営管理部 管理部長	小 西 宏 樹	
	77 医療法人恵仁会なぎ辻病院	理 事 長	小 森 直 之	
	78 医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院	管 理 部 長	花 山 慎 一	
	79 加藤山科病院	事 務 部 課 長	黒 田 寿	
D ブ ロ ッ ク	伏見	80 独立行政法人国立病院機構京都医療センター	院 長	小 西 郁 生
		81 京都市桃陽病院	欠 席	
		82 医療法人新生十全会 なごみの里病院	病 院 長	赤 木 博
		83 医療法人医仁会 武田総合病院	事 務 長	宝 輪 克 博
		84 医療法人社団蘇生会 蘇生会総合病院	院 長	長 澤 史 朗
		85 社会福祉法人浩照会伏見桃山総合病院	院 長	本 庄 英 雄
		86 医療法人五木田病院	欠 席	
	87 社会医療法人弘仁会大島病院	主 任	一 宮 誉 里 子	
	88 医療法人社団淀さんせん会 金井病院	経 営 管 理 部 長	貞 由 憲 男	
	89 医療法人健幸会むかいじま病院	地 域 連 携 室	新 田 真 也	
	90 一般財団法人仁風会京都南西病院	事 務 長	大 倉 明	
	91 医療法人社団松ヶ崎記念病院	事 務 長	原 康 浩	
	92 医療法人松寿会 共和病院	欠 席		
	93 伏見岡本病院	総 務 課 長	肥 塚 一 幸	
	94 医療法人清水会 京都リハビリテーション病院	室 長 補 佐	瀧 村 孝 一	
	95 医療法人財団医道会稲荷山武田病院	院 長	土 屋 宣 之	
	96 特定医療法人桃仁会病院	事 務 長	藤 井 本 龍 弘	



京都市域地域医療構想調整会議(Dブロック) 配席図





京都市域地域医療構想調整会議の進め方について

【目 的】

平成 29 年 3 月には「京都府地域包括ケア構想」を、平成 30 年 3 月には地域包括ケア構想等を踏まえ具体的施策等を記載した「保健医療計画」を策定

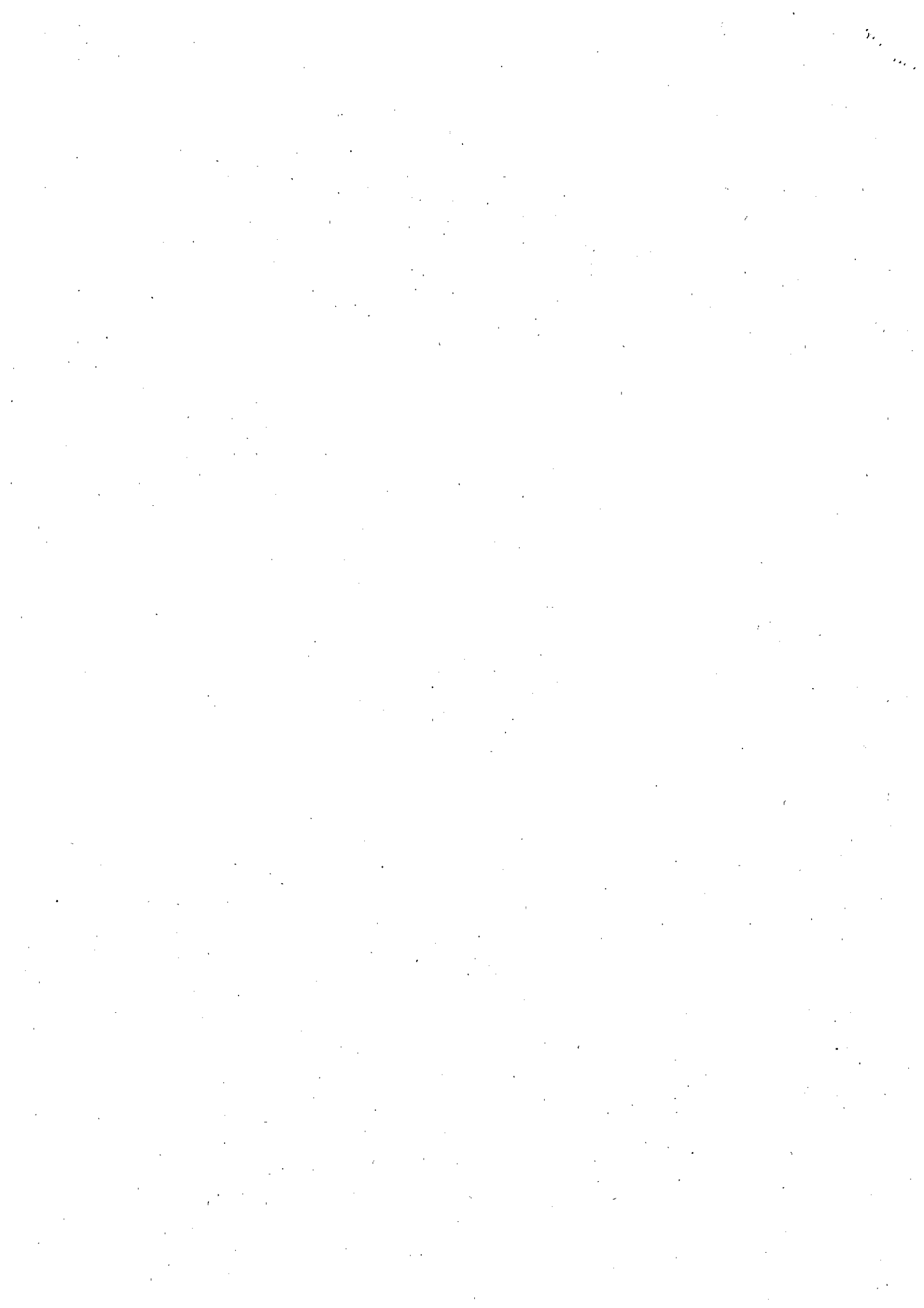
今年度は、これら計画を踏まえ、各関係機関、団体等とより連携を図り、目標達成に向け取組を図る。

【調整会議の進め方】

京都市域を除く各地域医療構想調整会議においては、全病院等が会議等に参画し、意見交換を実施している。

一方、京都市内においては、対象施設が多いため、全病院等が一同に参集することが難しいことから、地域の実情を考慮したブロックに分け、より多くの病院等の参画が得られるよう進める。

概 要	備 考										
<p>○ 「救急病院群輪番編成表」の 4 ブロックを参考に、全病院等参加の組織を立ち上げ議論を進める。</p> <p>○ 協議内容により全体会とブロック会議に分け議論を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会⇒ブロック会議の状況把握、ブロックを越えた調整等 ・ブロック会議⇒疾病別医療需要の実状を踏まえた病院機能、在宅医療、介護サービスの連携等 <p>(参考)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%; text-align: center;">区 分</th> <th style="width: 70%; text-align: center;">対 象 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院数 (精神科単科を除く)</td> <td>97 施設 (うち、在支病：15 施設)</td> </tr> <tr> <td>診療所数</td> <td>1,665 施設 (うち、在支診：205 施設)</td> </tr> <tr> <td>訪問看護 S T 数</td> <td>168 事業所</td> </tr> <tr> <td>地区医師会数</td> <td>13 地区</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	対 象 数	病院数 (精神科単科を除く)	97 施設 (うち、在支病：15 施設)	診療所数	1,665 施設 (うち、在支診：205 施設)	訪問看護 S T 数	168 事業所	地区医師会数	13 地区	
区 分	対 象 数										
病院数 (精神科単科を除く)	97 施設 (うち、在支病：15 施設)										
診療所数	1,665 施設 (うち、在支診：205 施設)										
訪問看護 S T 数	168 事業所										
地区医師会数	13 地区										



【Dブロック】第1回ブロック会議発表資料

行政区	病院名	ページ番号
山科区	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	1 ~ 2
	医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院	3 ~ 5
	医療法人社団恵仁会 なぎ辻病院	7 ~ 8
伏見区	医療法人医仁会 武田総合病院	9 ~ 10
	蘇生会総合病院	11 ~ 12
	社会福祉法人浩照会 伏見桃山総合病院	13 ~ 15



病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院			
所在地	京都市山科区音羽珍事町2番地			
許可病床数	548床（一般病床、療養病床の合計）※うち精神60床			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 488床 (0床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	整形外科	心臓内科	
病床機能	高度急性期 56床	急性期 373床	回復期 0床	慢性期 119床
主な病院機能	②救命救急センター（三次） ④地域災害拠点病院 ⑨脳卒中（急性期）を担う病院 ⑩急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 ・地域医療支援病院 ・京都府がん診療推進病院 ・在宅療養あんしん病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療の中核となる急性期病院 24時間365日断らない救急体制の整備 ドクターカーの運用 ○患者等への医療に関する啓蒙活動を実施 らくわ健康教室の実施、糖尿病教室など
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の医療機関や医師会及び行政との連携を密接にし、医療の役割分担を進める。 ○急性期医療を担う病院として、引き続き、救命救急センターの体制の整備や強化を行うとともに、後方病院との連携強化。 ○在宅患者との関わりが多い、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所との連携強化。 ○がん患者の受入れ
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院として急性期患者の受け入れ及び、地域の開業医への逆紹介の推進。 ○災害拠点病院として、災害時の地域医療の確保。 ○洛和会音羽病院検診センターの設置による予防検診の強化。 ○開放型病床を5床設置しており、開業医との共同診療を推進。 ○地域の高齢化に伴い認知症疾患の早期鑑別及び治療
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救急受入れ体制を維持し、現状の医療の継続と介護連携強化 がん患者受入体制の整備

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院			
所在地	京都市山科区小山北溝町 32-1			
許可病床数	186 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 37 床 (0 床)	医療療養 149 床 (0 床)	介護療養 床 (床)	
主な診療科目 （上位3つ）	リハビリテーション科	神経内科	整形外科	
病床機能	高度急性期 床	急性期 床	回復期 100 床	慢性期 86 床
主な病院機能	<p>⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院）</p> <p>⑨脳卒中（回復期）を担う病院</p> <p>重症難病患者一時入院事業を担う病院</p> <p>京都市認知症初期集中支援事業（山科エリア）を担う病院</p> <p>在宅療養あんしん病院等支援事業を担う病院</p> <p>（主な施設基準）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション病棟入院料 1（100 床） ・療養病棟入院基本料 1：29 床 ・地域包括ケア入院医療管理料 3：20 床 ・障害者施設等入院基本料（10 対 1）：37 床 ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I ・運動器リハビリテーション料 I ・呼吸器リハビリテーション料 I ・がん患者リハビリテーション料 ・CT 撮影及びMRI 撮影 等 			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○洛和会音羽リハビリテーション病院は「地域包括ケアを支えるリハビリテーション病院」を理念に、入院機能（回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟・医療療養病棟・障害者病棟）・外来機能（外来診療・訪問診療・訪問リハビリテーション）を有し、回復期から在宅医療までを担う病院として医療を提供</p> <p>○重症難病患者一時入院事業、認知症初期集中支援事業（山科エリア）、在宅療養あんしん病院等支援事業等を担い、高齢者・障がい者・認知症患者が地域のなかで出来る限り生活を続けられる社会の実現に努めている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○地域包括ケアシステム構築を支える病院として、引き続き回復期・慢性期・在宅医療の役割を担う為、体制を整備・強化する。</p> <p>○地区医師会・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・各行政機関等と緊密に連携を図り、情報の共有・役割分担を行う。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○今後、山科エリアの高齢化がより一層進む中で、地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーション病院の役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活機能の維持・拡大にむけてのリハビリテーションとケア（365日体制のリハビリテーション提供） ・在宅医療（訪問診療、訪問リハビリ）の充実 ・かかりつけ医との医療連携（神経内科・整形外科・リハビリテーション科等の紹介・逆紹介） ・認知症が疑われる人、認知症の人、その家族に対するメモリークリニック（物忘れ外来）及び初期支援 ・在宅療養中の高齢者が体調不良になった場合の入院受入 ・難病患者のレスパイト入院受入 ・生活を再構築出来る様、多職種協働（医師・看護師・事務・コメディカル）による支援 等
<p>今後の展望</p>	<p>○現状の医療機能（入院・外来）を継続する。</p> <p>○限られた医療資源の中で、地区医師会・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・行政機関等と緊密な連携を図り、山科エリアの地域包括ケアシステム構築に貢献する。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人社団恵仁会なぎ辻病院			
所在地	京都市山科区柳辻東潰5番1			
許可病床数	169床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 169床 (0床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）				
病床機能	高度急性期 0床	急性期 10床	回復期 30床	慢性期 129床
主な病院機能	二次救急告示病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

自施設の現状	地域医療をすべく、二次救急や時間外診療を受け、全身麻酔下の手術なども行っている。また、入院患者の多くは難病・障害が重い患者さんを中心に全体の入院患者の80%前後を占めている。
自施設の課題	あんしん病院登録患者に対し、近隣の診療所・医院を含め当院の診療体制など案内し、患者の受け入れ体制を強化する。 高度急性期病院で不幸にも回復の見込みがなくなった患者さんや障害や難病が重くなった方を在宅と病院の間で見ていく方法を考えていきたい。
地域において今後担う役割	高度急性期、急性期の後方支援を行え得る病院であり、また全館耐震構造であるため、大規模災害時に、山科区における医療参集病院として、近隣の医師と協力し地域の皆さんに役立つことができる病院でありたい。
今後の展望	地域医療を中心に難病や重篤な患者も診察していくことができる病院としてあり続けたい。また、地域包括ケア病棟になれない大きな理由として、当院がリハビリテーション部門を持っていないことがあげられる。そのため、リハビリテーション部門の設立を行っていく。

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人医仁会武田総合病院			
所在地	京都市伏見区石田森南町 28-1			
許可病床数	500床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 500床 (66床)	医療療養 0床	介護療養 0床	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	外科	小児科	
病床機能	高度急性期 20床	急性期 420床	回復期 60床	慢性期 0床
主な病院機能	救急告示病院、京都府がん診療推進病院、脳卒中（急性期・回復期・維持期）、急性心筋梗塞（急性期・回復期）			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○京都市南東部の急性期医療の中核病院として、6診療科（内科、外科、循環器内科、脳神経外科、小児科、産婦人科）、24時間体制の救急医療提供。</p> <p>○地域包括ケア病棟を有し、急性期医療だけではなく、急性期治療を終了し、自宅での療養に不安がある方に対して、在宅復帰に向けての医療を提供。</p> <p>○かかりつけ医からの依頼による在宅療養中の方の体調不良時に早期治療を実施するために在宅療養あんしん病院として登録。</p> <p>○京都府がん診療推進病院として質の高いがん医療を提供。</p> <p>○臨床研修指定病院として医師の育成や認定看護師の資格取得支援を通じて地域医療に貢献できる人材を輩出。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○急性期医療の中核病院として、更なる救急医療体制の充実を図る。</p> <p>○地域完結型医療の実践のため、急性期医療以外の回復期や慢性期、介護福祉施設との円滑な連携体制を強化する。</p> <p>○病院建物の狭隘、老朽化の改善。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○当院地域医療連携室を中心に病病・病診連携や介護福祉施設等との連携強化に取組み、地域包括ケアシステムの充実に貢献する。</p> <p>○在宅支援や予防活動、介護福祉に関する地域のニーズを医療法人医仁会が運営する醍醐南部包括支援センターや老人保健施設白寿、いわやの里の機能を活用することで地域医療に貢献する。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○救急医療の充実を図るため、救急専従医（現在は3名。内、日本救急医学会専門医2名）を更に増員し、救命救急センター認可に向けて取り組む。</p> <p>○病院建物の狭隘・老朽化や救急医療、がん医療、高度専門医療、周産期医療の拡充、入院・外来アメニティー整備などのため病院新築を検討。地域医療の充実に貢献したい。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	蘇生会総合病院			
所在地	京都市伏見区下鳥羽広長町 101 番地			
許可病床数	350 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 230 床 (0 床)	医療療養 60 床 (0 床)	介護療養 60 床 (0 床)	
主な診療科目 （上位 3 つ）	内科	整形外科	循環器科	
病床機能	高度急性期 0 床	急性期 176 床	回復期 54 床	慢性期 120 床
主な病院機能	③救急告示病院 ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院 ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>救急対応を行う急性期、回復期、維持期と多機能を有し、地域の患者を中心とした幅広いニーズに対応している。</p> <p>同一法人に介護老人保健施設、訪問看護、居宅療養支援センター、ヘルパーステーションがあり、地域包括ケアの大部分を担っている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>他病院、診療所やその他施設との連携強化</p> <p>介護福祉士の不足</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>地域包括ケア構築において、法人全体で有する現状機能のさらなる向上・充実</p> <p>この度、京都市の認知症初期集中支援事業の指定を受けた。高齢化に伴い社会問題化している認知症対策の一翼を担っていきたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>6年後の介護療養型廃止に向け、介護医療院に転換の方向で検討中。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	社会福祉法人浩照会 伏見桃山総合病院			
所在地	京都市伏見区下油掛町 895			
許可病床数	199 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 139 床 (5 床)	医療療養 60 床 (0 床)	介護療養 0 床 (0 床)	
主な診療科目 (上位3つ)	循環器内科	外科	消化器内科	
病床機能	高度急性期 0 床	急性期 56 床	回復期 23 床	慢性期 120 床
主な病院機能	救急告示病院（二次救急） 脳卒中（回復期）・（維持期）を担う病院 障害者施設等入院料算定（60 床） 居宅療養管理指導（医師・薬剤師）・訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション（短時間）・訪問看護ステーション			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>地域密着型のケアミックス病院として、二次救急から維持期までの医療を幅広く提供している。</p> <p>診療科は循環器・消化器内科系と消化器外科を中心としながら、整形外科や脳血管疾患の亜急性期から回復期、さらには慢性期のリハビリテーションを行っている。</p> <p>加えて、在宅医療の提供として、医師、薬剤師の居宅療養管理指導、訪問・通所リハビリテーション、訪問看護を実施している。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>医療療養病棟1の運営を行っているが、医療区分の関係から対象症例を確保することに苦慮している現状にある。</p> <p>在宅復帰が困難な医療区分1の患者で、療養病棟へ転棟を進めるも経済的な理由から転棟が困難というケースも少なくない。また、同様に施設での費用負担の問題から施設への入所に理解が得られないケースも増えており、その対応が大きな課題となりつつある。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>二次救急とポストアキュートを含めた急性期医療、サブアキュートを中核に運用する地域包括ケア病棟にて、在宅療養をサポートする町の救急病院を目指します。この急性期から回復期の機能を在宅支援機能（在宅医療の提供も積極的に行います）と連携させることで、在宅復帰支援から病状変化に伴う入院医療の提供を行い、在宅療養患者や診療所の後方支援を実施します。これらにて、在宅療養を支える病院としての役割を果たしていきます。</p> <p>加えて、医療的処置の必要性が高く、かつ在宅生活が困難な障害者施設等入院医療に適合する患者の入院治療も行い、病状不安定による施設生活困難な患者のサポートを行います。</p> <p>そして、医療的な処置の必要性の低い、安定した患者は同法人や連携を深めた地域の介護施設へ適時の紹介を行うことで、医療機能を発揮しながら介護施設とも連携できる、医療・介護連携の中核病院を目指していきます。</p>

<p>今後の展望</p>	<p>平成 30 年 10 月から地域包括ケア病棟（23 床）への転換を図り、より地域に密着した医療提供を行います。</p> <p>平成 30 年度中に医療療養病棟を障害者等施設入院病棟（区分としては一般病棟）に転換し、入院加療の必要な透析患者、医療処置の必要性の高い患者の受入を進めていきます。</p> <p>当院は耐震問題等の施設の老朽化対策として、新築移転の計画を着実に進めている状況にあります。移転の際には病床の機能を改めて見直すこととしています（現行の病床数構成を含む）。</p> <p>急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、障害者等施設入院病棟の運営を行いつつ、在宅医療を積極的に提供することで、在宅療養中の患者の入院受入も積極的に実施する方針としています。超急性期医療の必要性の低い慢性疾患患者の増悪等に対応する在宅療養での安心を提供する地域密着型の病院を目指しています。</p>
--------------	---

